

南山城村観光振興計画(案)に対するパブリックコメントの結果について

○パブリックコメントに基づく修正内容

該当箇所	修正前	修正後
P6 本文 13行目	道の駅ホテルへの宿泊も絡めながら	宿泊も絡めながら

○ご意見とそれに対する村の考え方

No.	該当箇所	提出意見(要約)	回答
1	P21 第3章3-1 基本方針	コンセプトコピー「お茶がつむぐもうひとつの田舎」について。 「お茶がつむぐ」とは何か? どういうイメージでつけたか? コピーは、言葉を聞いた瞬間にそのシーンが明確にイメージ出来なければ、意味が分からず、スルーされてしまう。 対お客様だけでなく、村内で観光に従事する関係者の中でも、捉え方に食い違いが生じ、明確なビジョンに向かっていけなくなる。 さらに「お茶がつむぐ」という、何となくおしゃれな響きだけ明確さが欠ける言葉によって「もう一つの田舎」という一番伝えたい部分が弱くなってしまっている。 お茶の要素を入れるなら、アンケート回答を参考に ・「茶畑とむらびとがもてなす もうひとつの田舎」 ・「茶畑が自慢の もうひとつの田舎」 ・「おいしいお茶と茶畑を楽しむ もうひとつの田舎」 など、具体的なイメージの出来るものに再度検討をお願いします。	「お茶がつむぐもうひとつの田舎」とは、茶の生産風景や茶のある暮らしを軸とし、そこにその他様々な村の資源がより合わさって織りなす村独自の風景や暮らしの体験が、訪れる方にとって心安らぐもうひとつの田舎として魅力を感じて頂ける様を表現しています。 頂戴したご意見は計画の見直しの際に参考とさせていただきます。
2	なし	なぜ村が観光に取り組みないといけなかが浮かび上がってこない。アクションプランを実行したとしても、「地域産業の縮小・衰退」といった村の課題に具体的に対応できると思えなかった。観光が村の産業を救う、または観光そのものが村の産業となると考えているのか?	製品の生産背景や過程に触れる体験等を観光商品にすることで、生産者にプラスαの収益が入ること、直接消費者の声に触れる機会を得ることによって産業の持続と発展につなげたいと考えています。 これは生産者だけでの実現は困難であるため、計画では、観光客の受け入れ環境整備と合わせて、村全体の観光マネジメントを担う観光むらづくり団体の設立を目指すものとなっています。 年間約70万人の観光入込客をターゲットとして、地域産業に還元することを目的とした観光むらづくり事業として取り組みます。
3	なし	コロナ禍における観光のあり方についての考察が欠けている。今後ただちにコロナが終息するとは考えにくい。不特定多数の人が同じ時間・場所に集まる観光スタイルは今後も成立すると考えているのか?	計画時において、新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況にあり、傾向と対策を立てられる状況になく、村の観光受入れ環境の現状(狭い道路や限られた交通手段、サービス提供規模など)から、一般的な小規模・少人数の個人旅行を想定したものとなっています。Withコロナ・アフターコロナへの考察と対応の必要性についてはご意見のとおりで、見直しの際に盛り込むべきと考えております。
4	P21 第3章3-1 基本方針	「お茶がつむぐ もうひとつの田舎」とある。今後の茶の生産は、価格低迷や人材不足、経費の上昇等により基盤産業として成立しうるか不透明な情勢である。観光よりも村の基盤産業の支援・育成を第一とするべきではないか。	村の特産品であるお茶を資源とした観光施策を進める前提として、ご意見のとおり、村の基幹産業としての茶業振興支援と持続化の取り組みは不可欠と考えます。現在、茶対策事業等で遅霜やコロナ禍等社会情勢による影響への支援のほか、担い手確保への取り組みを進めているところです。観光によるお茶の魅力発信で相乗効果となるよう取り組みを進めて参ります。
5	P27 第5章5-1 基本方針1 プロジェクト1	「観光むらづくり団体の設立」とあるがこの団体と南山城村観光推進協議会との違いはなにか?	南山城村観光推進協議会は観光振興計画の諮問機関という位置づけとなります。これから設立予定の観光むらづくり団体は、南山城村全体の観光事業を取りまとめ、マネジメントを行う観光団体を想定しています。
6	P28 第5章5-1 基本方針1 プロジェクト2	パブコメとホームページ告知のみで「観光むらづくりへの村民の理解を深め、地域が一体となり、観光事業を推進」することが可能か? 楽観的すぎないか。	本計画の策定には、村民の皆様や村内事業者の皆様にご協力をいただき、ワークショップ(グループでの意見交換・議論の場)を実施して、そこから様々なご意見を反映させていただきました。今後の計画推進・見直しにおいても、アンケートやワークショップ等ご意見をいただく機会を持ちながら進めていくこととしたいと考えています。
7	P2 第1章1-1 (2)概要	P2(概要)ここに記載されている趣旨に賛同です。 (手段という用語が適当かどうかは、意見のあるところですが) 村民参加＝<中心的に>を重視し、計画が推進されることを望みます。	計画趣旨へご理解をいただきありがとうございます。あらためて既存資源を観光でつなぎ、若年層が村へ回帰するような魅力の創造と発信に取り組んでいきたいと考えています。
8	P4~20 第2章全体	P5の文章とP6の文章に大きな違いがある。P6の文章が、実態を率直に表していると思うし、この現状を基本にして考えていくべきだと思う。「道の駅」で入込数が伸びても現状では、村の観光に大きく貢献しているようには思えない。また、マリオットホテルに期待しすぎる表現に違和感を感じる。ホテルを否定するものではないが、南山城村の「ありたい姿」として描かれる「もうひとつの田舎」とのイメージのずれ・違和感を拭い去りかねる。『田舎』を求める人が、「近代的な」ホテルに泊まって、「いなか」を満足するのだろうか。「いなか」を売りにするなら、それにふさわしいイメージをつくるべきであり、それはマリオットホテルではないだろうと思う。 「いなか」(田舎)というとき、故郷(ふるさと)と同意味で使用することがあります。例えば、田舎に帰る＝故郷へ帰る(帰省する)のように。だから、田舎でなく故郷ではいけないのでしょうか。＝「もうひとつのふるさと」 意図的に「いなか」という表現をする意味があるのならば、それでいいとは思いますが、「ふるさと」というほうが、通じやすいと思うのです。 唱歌「ふるさと」で歌われている「いなか」のイメージ(失われ続けている)を求めている都市部の人々に「行ってみたい」と思われる観光村づくりを。そして、USJやディズニーランドのような遊びではなく、自然の中で能動的に、かつ、自由に創造・体験できる場の提供する観光地がむらを他と差別化し魅力化する重点ではないかと考えます。 子供たちに、小川での雑魚取り、サワガニ取り、山で木を切ったり、「すみか」作り、水田などでの泥遊びなどを通して、網の使い方や安全なナイフの使い方など自然の中で遊ぶ面白さを、大人には、山菜取りや野草の花(ささゆり・ツツジ・朴の花・つばき等々季節ごとの山野草・樹木の花)を楽しむ面白さを。 さらに、虫狩りや野鳥観察など村にある当たり前の自然のよさを生かした観光や農作業体験(コメ作り・茶摘み・製茶体験等々)、収穫体験(稲刈り・茶摘み・芋ほり・シイタケ取り・ブルーベリーつみ・果物狩り)など、親子・家族で楽しめるサービスを商品化して提供する村人の組織作りや一定の環境整備に取り組むことが必要です。自然環境が壊されてしまう前に。	P5では、山城エリアにおける観光入込客数の状況を表しており、村は他市に劣らない結果となっているが、P6では南山城村の観光状況の詳細であり、観光入込客数を観光消費額につなげられていない状況を表したものとなっています。 魅力的な観光コンテンツや宿泊施設は、観光消費額を左右する滞在時間の延伸を図るために必須となるものです。「フェアフィールド・バイ・マリオット京都みなみやましろ」は、ホテル内での食事提供がなく地元周遊をコンセプトとしているため、村内消費を促すスタイルといえます。既存リゾート企業における宿泊事業撤退があった中で、農泊や民宿などに加えて有用な選択肢となり得ると考えており、期待を込めた表現としておりますことをご理解いただきたいと思います。 また、ご意見をいただきました「もうひとつのふるさと」については他自治体や事業者等が既に使用していることもあり採用しておりません。

南山城村観光振興計画(案)に対するパブリックコメントの結果について

No.	該当箇所	提出意見(要約)	回 答
9	P21 第3章3-1 基本方針	3-1基本方針の観光村づくりの将来像「お茶がつむぐ もうひとつの田舎」というスローガンはいいと思いますが、前に書いた「いなか」のイメージが共有されているのでしょうか。「いなか」とは、「将来像」でいう「豊かな暮らしが残り、自然やアウトドアが家族で楽しめる…もうひとつの田舎」と表現していますが、……。村民が、自分の村をそのようにとらえ、胸を張って紹介できるのでしょうか。まず、村民が、自分の今いるところを自慢し、ほかの人にも一緒に住んでほしいと考えるような村づくりを進めることではないかと思えます。	豊かな暮らしが残り、自然やアウトドアが家族で楽しめる「もうひとつの田舎」を令和6年度に実現できるように計画を進めていきたいと考えています。村民の皆様や旅行会社へのアンケートでは、村の魅力について、その大半が木津川、茶畑景観、山河等の自然だという結果がありますが、村民の皆様にとって当たり前の光景が貴重な価値ある資産であることを再認識していただけるように、観光施策の推進と併せて取り組みを進めていきたいと考えています。
10	P23 第3章3-3 施策の体系 ・ P25 第4章4-1 役割分担	基本方針1のプロジェクト2「…村民意識の醸成」この表現に抵抗を感じます。なんとなく「上に引き上げる」と思ってしまう。村民が主体にならない限りは、この取り組みは、成功しないでしょう。村民の自主的な参加をどう作り出すかそこに注力することが大事だと思います。そのためには、村民にとって、どういうメリットがあるか具体的に提示し、参加したくなる提案をするべきだと思います。「意識の醸成」ではなく、この取り組みに参加しやすい条件を整えることではないかと思えます。参加する中＝一緒に取り組む中でしか、意識の変革はないと思えます。誰かに任せておけばいい、自分に関係ないと思っている間は、うまくいかないと思えます。改めて、村民がもっと積極的に参加できる体制をつくる必要があると思えます。今回のパブコメのように、ごく短時間しか意見を述べる期間がない、また、「計画案」が出されていることを知る、また、手に取って読むことができる機会がない村民が圧倒的に多い状況では、村民参加は期待できないのではないかと考えざるをえない。このパブコメに限らずどのようなものでも、広く案を周知し、意見を求める期間もゆとりがあるものにしていただきたい。それでも、意見の数は少ないかもしれないが、これが住民参加の原則だと思うからです。よろしくお願ひします。	本計画は策定して完了ではなく、適時更新を行う予定をしています。策定にあたって実施しました村民の皆様等によるワークショップ(グループでの意見交換・議論の場)も継続して行うなど、村民の皆様意見を反映できる機会をもつことを考えています。また、情報発信や地域活動、おもてなし等参加しやすい取り組みから目に見える形でご提案していくなど、村民の皆様が理解していただける形にしていきたいと考えています。
11	P1 第1章1-1 (1)主旨	P1～14行目「活用しない手はない」について。この表現は、来客者(観光客)に対して失礼なように感じました。意図は理解しますが表現を変えてはどうでしょう。人々を「単なる通過者でなく、滞留型の観光客として足を止めていただけるようにしたいものです。」のように。	頂戴したご意見は、見直しの際に参考とさせていただきます。
12	P8～14 第2章2-2 (3)アンケート 調査	村民アンケート(中学生を含む)、観光客アンケート、旅行会社アンケートについて、もう少し回答者数があればいいのと思いました。それぞれに今後参考にすべき示唆に富んだ結果が出ているように思いました。(感想のみ)	ご感想ありがとうございます。今後も、こういったご意見を反映できるようアンケート調査を実施していきたいと存じます。
13	P15～17 第2章2-2 (4)ワーク ショップによる 意見	ワークショップが、令和2年度に3回も開かれていたことに驚きました。内容を読ませていただきましたが真剣に取り組まれ、課題や今後の活動の在り方について適切な意見や夢が語られているように思いました。	ワークショップ(グループでの意見交換・議論の場)では、5年後の観光の在り方について、住民・事業者・移住者等それぞれの立場から意見を出し合い、取り組みにあたっての課題や希望を整理していく場となりました。参加いただいた方々がテーマに真摯に向き合いまとめられたご意見を村の観光に取り組む当事者の皆様のご意見として計画に反映しています。
14	P21～26 第3章 第4章	基本方針と施策の展開について、課題を整理し、基本方針を3つに分けてアクションプランにうまくつなげているように思えます。目標値(KPI)を設定し、年度ごとに評価する方式を取り入れることも良いと思えます。計画倒れにならないよう、運営していただきたい。	計画の進捗については、毎年、検証と見直し等を観光推進協議会に諮り、実施していく予定としています。
15	P27 第5章5-1 基本方針1 プロジェクト1	アクションプランについて(P27 基本方針1観光推進体制づくり) ①観光協議会の構成の中に教育委員会は入っているのか?文化財を指定し管理し活用するのが教育委員会の仕事です。入っていないければ、是非とも入れる必要があると思えます。 ②観光コンテンツの整理は、一番急がなければならないと思えます。個人・各種団体・観光業者など多数を集め、できることから実施・運用するべきと思えます。	文化財を観光コンテンツとして活用する、あるいはその活用等を計画する場合には、各関係機関の協力が必要であり、教育委員会等の関係部署とは必ず連携し進めていくこととしています。観光コンテンツの集約は、おっしゃる通り重要と考えており、昨年度ワークショップ(グループでの意見交換・議論の場)で出していたいただいたコンテンツ案や、現状提供可能なコンテンツを総合的に組み合わせながらタリフ化(商談用の観光商品リスト作成)も進めていきたいと考えております。
16	P28 第5章5-1 基本方針1 プロジェクト2	アクションプランについて(P28 基本方針1村民意識の醸成) ①パブリックコメントの実施時期が3ヶ月遅いと思えました。諸般の事情があったのだと思いますが、実績作りだけでは村民意識は醸成できないと思えます。今後は、形だけのものにならないように願ひします。 ②HPはどれくらいの閲覧があるのでしょうか?HPだけの宣伝では不足だと思えます。“れんけい”の折込チラシの活用などが必要だと思えます。 ③②と併せて、次のような取り組みを提案します。 Aワークショップへの参加を毎回呼びかける B観光に関する学習会やハイキング、体験イベントなどを開催し参加を呼び掛ける Cスマホを利用した観光案内ができるように D道路脇、川などへのポイ捨てが後を絶ちません。定期的な環境美化活動を実施する。 ④ガイドブックはぜひ作成してほしい	パブリックコメント実施につきましては、今後、回答も含めまして早期の実施を心がけてまいります。計画進捗状況の情報提供としては、HPでの発信のみを考えておりますが、村民意識の醸成については、基本方針1にあるプロジェクト1「観光推進体制づくり」、プロジェクト3「情報発信の強化・充実」の取り組みと合わせて取り組んでいくこととしています。頂戴したご意見は今後施策を具体化していく段階で参考とさせていただきます。

南山城村観光振興計画(案)に対するパブリックコメントの結果について

No.	該当箇所	提出意見(要約)	回 答
17	P32～33 第5章5-2 基本方針2 プロジェクト1・2	アクションプランについて(P32 魅力あるコンテンツの創出) 観光資源コンテンツとして思い浮かぶものを提案します。 ①観光資源の調査・発掘、整理・データ化を早急に進めること。アンケートやワークショップの中にもたくさん提案されているし、未だ埋もれた資源があるように思えます。 A自然や景観 B暮らし C歴史・文化財 D農林業と連携した観光資源 E自然を生かしたコンテンツ F観光イベントの開催 項目ごとに整理すること。 ②農林産業を活用したコンテンツ 米作り・茶摘み・手作り製茶・茶料理づくり体験 茶畑コンサート 林業体験・薪割り体験 シイタケ植菌体験 ブルーベリー狩り 村料理講習会・陶芸体験等々 ③伝統的行祭事活用ツアー 田山花踊り、恋志谷神社、六所神社他 ④自然を生かした観光コンテンツ レジャー・・・カヌー・サップボード体験・魚釣り・水遊び・ハイキング・登山(国見岳・三ヶ岳・牛場山・クノスケ)・トレッキング・登山道作り・キャンプ・サイクリング 自然観察・・・樹木・草花観察・バードウォッチング・写生会・写真ビデオ撮影会・滝めぐり(不動の滝・稚児の滝・乳母の滝・雄滝・雌滝・明神の滝) ⑤観光イベント・・・サイクリング・京村まつり・村活き生きまつり・丸太切り体験・炭焼き体験 ⑥歴史・文化財・・・遺跡石仏めぐり・文化財めぐり ⑦わらべ歌活用・・・村に残るわらべ歌を現代風にアレンジ編曲 ⑧村・歴史・民俗資料館建設検討 道の駅近辺に ⑨木津川、高山ダムにカヌー遊び、釣りなどの推奨場所の設定・整備に取り組む ⑩桜・梅・紅葉などの花見ができる場所の選定と整備・植栽計画 ⑪山桜遠望スポットの選定 ⑫コンテンツ創出のために、村民・観光客に村の絶景ポイント(『私のおすすめ村の絶景』)の募集	ワークショップ(グループでの意見交換・議論の場)で出されたコンテンツ案と合わせて、頂戴したご意見は今後施策を具体化していく段階で参考とさせていただきます。
18	P36 第5章5-3 基本方針3 プロジェクト2	P36環境整備 ①環境整備計画の策定の中に、河川や道路のゴミ拾い・清掃等の呼びかけ・実施 を入れる	頂戴したご意見は今後見直しの段階で参考とさせていただきます。
19	P37 第5章5-3 基本方針3 プロジェクト3	P37交通アクセスの充実・活用 交通サービスの開発・運営の中に、2時間程度で周遊できるコースを企画し、運営する(有料) 〈例〉道の駅 → 茶畑(今山かツルギ) → 高山ダム → 夢絃峡 → 明神の滝 → 恋志谷神社 → 春光寺 → 道の駅	ワークショップ(グループでの意見交換・議論の場)で出されたコンテンツ案と合わせて、頂戴したご意見は今後施策を具体化していく段階で参考とさせていただきます。
20	P21 第3章3-1 基本方針	P21「もうひとつの田舎」という表現が分かりにくい。確かに田舎から都市部に移住した人は、実家に帰る＝田舎に帰ると言うが、一般的には、田舎は都会の対義語で使う。「もうひとつの」につなげると(実家)故郷になると思うが、大げさにも聞こえる。羽を伸ばせる、安らげる場所とか、オアシス、よりどころ、隠れ家のような意味の言葉が良いと思う。	ワークショップ(グループでの意見交換・議論の場)でまとめた内容を反映しています。「田舎=心のふるさと」といった、里帰りしたくなるような懐かしさの心休まる場所をイメージした表現となっています。頂戴したご意見は見直しの際に参考とさせていただきます。
21	P25 第4章4-1	P25観光商品の「造成」→「創出」か「開発」	商品造成とは旅行の企画、特に個人旅行向けの企画のことを指す言葉として一般的に使われており、「新しく一から作り出す」意味の創出・開発とは異なる意味合いで使用しています。
22	P28 第5章5-1 基本方針1 プロジェクト2	P28計画に含めるべきか分からないが、地域が一体となるのは難しいと思う。観光に予算を割くことへの反発や、狭い道に観光客が来ることへの不安、ゴミ、騒音等の迷惑行為の想定、対処は必要だと思う。	おっしゃる通り、観光振興には住民の皆様のご理解とご協力は欠かせないものと考えています。生活環境への影響には配慮が必要だと考えます。頂戴したご意見は今後施策を具体化していく段階で参考とさせていただきます。
23	P6 第2章2-2 (1)観光状況	P6～2-2本村の現状(1)観光状況「道の駅ホテル」 「道の駅ホテル」についての説明はP19にある。ここでは表現を変えては。	ご指摘のとおり、P6では「道の駅ホテルへの」を削除する形で修正します。
24	P19 第2章2-3 (2)直近の課題	P19(2)直近の課題 アクションプランに対策がない。直近すぎる課題であり記述がないのかと思うが、ホテルオープンが好機であり行政の対応も必要。	ご指摘のとおり、アクションプランには全体的な観光振興施策について記載しています。アクションプランそれぞれの施策を進める中で、直近の課題について優先的に取り組んでまいります。
25	P33 第5章5-2 基本方針2 プロジェクト2	P33プロジェクト2 観光プログラムの創出 「体験観光」の記述がないが農業体験ができることは村の強み。観光プログラムの創出に当たっては、意欲のある農業者の集合体である「農林産物直売所」と連携すべき。	農業体験については、基本方針2プロジェクト1「既存の観光資源の磨き上げと観光コンテンツの創出」中、②地域産業を活用した観光コンテンツの創出(農林業・商業・教育等)に位置づけて進めることとしています。今後施策を具体化していく段階で農林産物直売所の皆様も含め、農業者の皆様との連携が必要と考えております。
26	P34 第5章5-2 基本方針2 プロジェクト3	P34プロジェクト3 新たな商品開発の促進・食の魅力づくり「本村の食材を活用した商品の企画・開発(加工品を含む)」 南山城村雇用促進協議会の商品開発などの先事例を引き継いだ上で、民間事業者も巻き込んで取り組むべき。	南山城村雇用促進協議会が開発したレシピ等については、南山城村が引き継いでおり、村内事業者様による活用が可能です。商品開発や食の魅力づくりについて、民間事業者の皆様のご協力なくしては実現できないと考えております。今後施策を具体化していく段階で、協力を得ながら一緒に開発していきたいと考えております。
27	P36 第5章5-3 基本方針3 プロジェクト2	P36プロジェクト2 観光案内における環境整備 ワーケーション施設の整備にあたっては、農業体験者や農繁期のアルバイト居住も想定すべき。	おっしゃる通り、農業体験者・農繁期の農業従事者居住についても、今後検討していかなければならないものと考えています。
28	P37 第5章5-3 基本方針3 プロジェクト3	P37プロジェクト3 交通アクセスの充実・活用 調査・検討だけで実施の記述がない。また、観光むらづくりに対する村民の理解を進めるためにも、村民の生活交通手段の脆弱性の解消も目指すべき。	村の交通対策担当課とも協議を進め、村民の皆様にも観光客の皆様にも利用しやすい交通システムについて強化できるよう、取り組んでいきたいと考えております。